

# 東京都の地域社会における湧水と用水路から 考察する生物多様性と人の生活の調和について

東京都立八王子東高等学校 井上滉木 関根遼成 杉野夏帆 佐々木聖

## ●目的

東京都立八王子東高校は、2019年に発生した台風第19号が、東京都を流れる多摩川・浅川に及ぼした被害を調査したことを皮切りに、これまで継続的に多摩川・浅川の生物多様性と、それに関わってきた地域社会の人々の想いを探究してきた。

2023年以降は、地域社会も含めて市民が河川とどう関わっていくことができるのかを、実際に河川管理の事業に関わっている方々とともに「生物多様性が持続可能な多摩川・浅川」を含めて考察を行った。

本年度は、これまでの探究をさらに発展させ、実際に住んでいる方々の湧水・用水路への思いに着目し、結果として生物多様性につながることを考察した。

## ●漁業に関わる人々が理想とする多摩川・浅川

多摩川漁業協同組合日野支部の皆さんの思い

人命と安全が何よりも大切。そのうえで地域社会が河・川と関わっていくことや、できることを考えていかななくてはならない。コンクリート化の影響がわからないが、前の台風では、外来種も含めて魚がほとんど海に流れていってしまった。



多摩川はだいぶ綺麗になってきている。魚や動物の多様性ももどつつあり、水質も人が入れるほど。「河=汚いもの・怖いもの」とは思わず、昔のように河に帰ってきて遊んで欲しい。そうすることで、河の大切さがわかってもらえる。



→河・川に帰ってきて遊んでほしい それが自然保護につながる

## ●日本の行政に関わる人々が理想とする多摩川・浅川

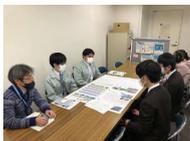
国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所の取り組み



瀬切れ（河に水がない区間）が存在する。湧水の減少や、降雨時の水質汚濁負荷が高い地域もある。防災の観点から、限られた予算内で対応していく。

→防災と人命は大切 限られた予算内で実現する必要がある

## ●八王子市環境政策課・水環境整備課インタビュー



### 【分かったこと】

・湧水の公園は多いが入ることはできない。・河川から水を引いた公園は数少ない。

→市民が公園に一番求めているのは「**景観**」  
→「**自然**」や「**生物多様性**」ではない →安全確保が大切

## ●生物多様性が持続可能な多摩川・浅川

・事実、私たちの幼いころの体験が生物多様性を考えていこうとする原動力となっている

生き物が捕獲できる河川の水を引いた公園 **安全も確保** する

美しい景観は人々の目を自然に向けさせ、生物多様性の維持に繋がる

人々が集うことができ、子どもたちが生き物と触れ合えることができる場所 害者も参加したいと思えるイベント

鳥類の繁殖に必要な樹木は川沿いの高いところへ

流れに影響しない自然物は放置

小魚が隠れられる場所を確保

湧水水路をあえて住宅街に設置

水量と深さを維持

## ●日野市用水路での発見



## ●日野市・八王子市用水路上流（浅川）での発見



→生物種が少ない！！ 用水路とつながる水門

## ●【RQ】湧水が及ぼす生物多様性



→用水路には浅川から流れてきた水と住宅街から湧いている湧水が混ざっており、生き物にとって過ごしやすい「きれいな水」になっている。

→では実際に住んでいる人々は湧水のことをどう思っているのだろうか？

## ●日野湧水フィールドワーク

4年前のフィールドワークでたまたま通りかかった田中徹さんが日野市の森林インストラクターであったため、湧水の調査と、地域の人たちからお話を聞く機会をいただいた。



事件

通りかかった地域の方

湧いてくる水は流すしかない  
ミクリが大量に発生して雨の日に排水管に詰まって被害が出るのが心配。  
昔は水路の横に茶畑の日陰があった。  
水路そのものも危ない。

## ●湧水を守っている方々の想い



湧水を知ってほしい。この地域の人たちは水と関わって生きてきた。湧水のある「まち」を残したい。

## ●提案

→湧水を活かした継続可能な「まちづくり」

→安全性も考えた用水路と息する生き物の在り方

